JA静岡経済連

KEIZAIREN 情報5

2022.05 NO.1292

安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

茶をめぐる情勢と茶業部の取組

▲メイントピックス「茶をめぐる情勢と茶業部の取組」

▲静岡茶市場での新茶初取引で挨拶する松永会長

Main topics

茶をめぐる情勢と茶業部の取組 ……01

topics&news

令和4年度事業計画を決定
静岡県経済農業協同組合連合会臨時総会…03

新茶シーズンの幕開け
令和4年静岡茶市場初取引 ……03

良質茶の計画生産を
一番茶定点定期生育調査……04

県産農産物をPR
ラジオ番組「JA全農COUNTDOWN JAPAN」で「葉ショウガ」を紹介 ……04

令和3年産米食味ランキング
県産「にこまる」(西部地区)4年連続「特A」評価を獲得…05

県産米の認知度向上へ
「しずおか米　おいしいお米再発見!キャンペーン」を開催…05

人気スイーツ店で県産品をPR
県産ブルーベリーのタルトを販売 ……05

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介…06
あぐりんく静岡からのお知らせ ……06

営農支援だより

サツマイモ基腐病に注意 ……07
これからの茶園の病害防除 ……08

お知らせ

JAタウン しずおか「手しお屋」から新茶のご紹介…09

新入職員の紹介

令和4年度新入職員紹介 ……10

main topics
メイントピックス

茶をめぐる情勢と茶業部の取組

Ⅰ はじめに

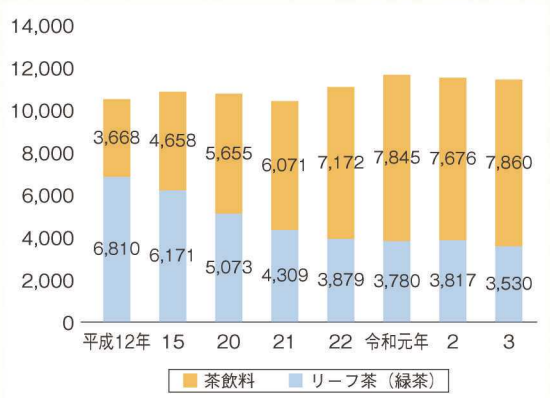
本県は、多品目の農産物を生産していますが、その中でも茶は生産量全国第1位を誇る本県を代表する農産物です。しかし近年、消費動向の変化などにより本県の茶の生産量は年々減少しています。今号では茶をめぐる情勢と本会茶業部の取組について報告します。

Ⅱ 茶をめぐる情勢

1. 生産動向

1世帯当たりの金額ベースの消費量は、茶類の合計では平成12年以降ほぼ横ばい状態となっていますが、内訳をみると緑茶（リーフ茶）は約半減となる一方で、茶飲料は2倍以上に増加しています。また、若年層ほどリーフ茶の購入数量・金額ともに減少しています。（表1）

表1-①茶類の1世帯当たり年間品目別支出金額



出典：総務省「家計調査年報」

表1-②緑茶（リーフ茶）の1世帯当たり購入量・金額（世帯主の年齢階級別）

世帯主の年齢	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
支出金額（円）	480	880	1,556	2,522	3,854	5,804
購入量（g）	198	228	462	601	926	1,126

出典：総務省「家計調査年報」

▲機能性食品「JA静岡粉末茶」（左上）
「静岡抹茶ペースト」（左）
「静岡茶ビール」（上）

2 消費動向

本県の令和3年度荒茶生産量は、29,700トンで、減産となった令和2年度に比べ約20%増加しましたが、平成以降のピークとなった平成5年46,000トンに比べ約35%減少しています。茶期別生産量では、リーフ茶向けの一番茶の生産量は減少していますが、ドリンクやティーバッグ、粉末茶向けの三番茶や四番茶・秋冬番茶の生産は増加傾向となっています。

3 本県の茶情勢

令和3年度は2年度に比べ、一番茶で7日程度早い過去最速の生育状況となり、荒茶の生産量・平均単価ともに上回りました。茶商在庫は全体的に少ない状況で、リーフ茶およびドリンク原料ともに引き合いが強くなりました。

リーフ茶の消費が減少する中、本会では静岡茶の消費拡大に向け、緑茶カテキン類の内臓脂肪低減効果による機能性食品「JA静岡粉末茶」、多用途利用に向け「静岡抹茶ペースト」の商品化、新たな飲み方提案として「静岡茶ビール」などを推進しています。また、県農林技術研究所などでは、多様なニーズに対応する茶新品種の開発なども進められています。（本誌4月号「最新研究紹介」に掲載）

表2 「みどりの食料システム戦略」が2050年までに目指す姿と取組方向（一部抜粋）

温室効果ガス削減	温室効果ガス	・2050年までに農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現を目指す
	農林業機械・漁船	・2040年までに、農林業機械・漁船の電化・水素化等に関する技術の確立を目指す
	園芸施設	・2050年までに化石燃料を使用しない施設への完全移行を目指す
環境保全	化学農薬	・2040年までに、ネオニコチノイド系農薬を含む従来の殺虫剤を使用しなくてすむような新規農薬等の開発により、2050年までに、化学農薬使用量（リスク換算）の50%低減を目指す
	化学肥料	・2050年までに、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の30%低減を目指す
	有機農業	・2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができるよう、次世代有機農業に関する技術を確立する。これにより。2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%に拡大することを目指す
食品産業	食品ロス	・2030年度までに、事業製造業系食品ロスを2000年度比で半減させることを目指す。さらに、2050年までに、AIによる需要予測や新たな包装資材の開発等の技術の進展により、事業系食品ロスの最小化を図る
	食品産業	・2030年までに食品製造業の自動化等を進め、労働生産性が3割以上向上することを目指す（2018年基準）。さらに。2050年までにAI活用による多種多様な原材料や製品に対応した完全無人食品製造ラインの実現等により、多様な食文化を持つ我が国食品製造業の更なる労働生産性向上を図る。 ・2030年までに流通の合理化を進め、飲食料品卸売業における売上高に占める経費の割合を10%に縮減することを目指す。さらに、2050年までにAI、ロボティクスなどの新たな技術を活用して流通のあらゆる現場において省人化・自動化を進め、更なる縮減を目指す。

Ⅲ みどりの食料システム戦略

農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」では、中長期的な観点から、調達・生産・加工・流通・消費の各段階の取組とカーボンニュートラルなどの環境負荷軽減のイノベーションを推進します。国内の食料・農林水産業は、大規模自然災害・地球温暖化、生産者の減少など生産基盤の脆弱化や新型コロナウイルス感染症拡大による生産や消費の変化などの課題に直面しており、将来にわたって食料の安定供給を図ることが必要になります。SDGsや環境を重視する国内外の動きが加速する中、持続可能な食料供給システムの構築が急務となっています。

「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに目指す姿と取組方向を表2のとおりに策定しています。

Ⅳ 茶業部の取組

1. みどりの食料システム戦略

①現状と課題

「みどりの食料システム戦略」においては、2050年の有機農業の面積割合を耕地面積の25%に拡大することを目標としていますが、2018年時点では0.5%にとどまっています。

茶は他作物に比べ、有機栽培に取り組みやすいとされていますが、病害虫や雑草の発生、収穫量の減少や品質面の低下などの課題があり、飛躍的な生産拡大には至っていません。また、有機栽培茶は、輸出事業者のニーズが高く、輸出の拡大にも生産販売体制の構築が重要となっています。

②茶業部の取組

茶業部は、JAや行政、茶業関係団体、茶商との連携により、有機栽培茶の生産拡大に向けた取組を実施します。また、国の持続的生産強化対策事業などを活用し、有機栽培茶の生産拡大に向けたモデル事業に取り組みます。取り組む項目と内容については表3のとおりです。

表3　有機栽培茶の生産拡大に向けた取組内容

項　目	内　容
実証圃の設置	・検討会の開催（県域・各産地）
	・有機栽培の実証（有機質肥料の施用、茶園用病害虫クリーナーの利用、残留農薬分析など）
ニーズ・市場調査	・茶商ニーズ調査（需要量、品質など）
	・国内外市場調査（海外バイヤーなど）
商品開発	・有機、輸出向け商品の施策
普及啓発	・PR資材の作成など

▲米国で開催されたバーチャルエキスポ（令和3年9月）

2. 販路拡大の取組

令和3年度は、茶の販売促進を緊急的に支援することを目的に販路多様化緊急対策事業が実施され、本会は事業実施主体となり茶を買い上げ、県内・外の学校へ仕上茶の配布を行いました。

また、長引くコロナ禍の中、令和3年度も各種イベントが中止となり、仕上茶販売は大きな影響を受け、特にインバウンド需要と土産物需要は低迷しました。そのような中、コロナ禍での新たな取組として海外で開催された貿易会社主催のバーチャルエキスポへ出展し、ウェブを活用した静岡茶のPRを行いました。

令和4年度も、日本茶・静岡茶の国内外消費拡大に向けた取組と、各種原料茶の供給対応などJA静岡茶の商品開発・販路拡大を図ります。

3. 輸出

本会は、主に東南アジア（シンガポール）とアメリカ向けに茶の輸出を行っています。シンガポールでは、流通開発課・本会駐在員と協力し、主に現地小売店向けに茶の販売に取り組みました。アメリカでは、日本食レストラン向けに静岡茶ティーバッグの供給を行っており、令和3年度は、新型コロナの感染拡大による飲食店などの休業で低迷した2年度に比べ、回復傾向となりました。

4. 茶の流通改善

令和3年度は、茶流通改革の取組として2年度に続き、粉引き0%取引(※)を実施しました。また、荒茶取引時間の改善に向け静岡県農協荒茶共販委員会内で問題点の抽出や対応策などについて検討会を開催しました。令和4年度についても引き続き、粉引き0%取引の継続実施および統一に取り組むとともに、荒茶取引開始時間の改善を検討します。

(※) 粉引き0%取引とは…
荒茶を加工して仕上茶にする際に出る粉の分を、代金から値引きする商習慣で茶業界では一般的に行われている。本県では、JAグループが令和2年度から全国で初めて粉引き0%取引を実施している。

Ⅴ おわりに

今回のメイントピックスでは、最新の茶をめぐる情勢と茶業部の取組について紹介いたしました。茶業部では、静岡茶の国内外での消費拡大に向けた取組と販路拡大を図るとともに、「みどりの食料システム戦略」に基づく有機栽培茶への取組や茶の流通改善などにも取り組んでまいります。長引くコロナ禍の中、茶の消費動向は不透明な状況が続いていますが、茶業部は静岡茶の消費拡大と振興に向け取り組んでまいります。

問い合わせ先
●茶業部　茶業課
電話：054-284-9719

令和4年度事業計画を決定
静岡県経済農業協同組合連合会臨時総会

3月29日、本会は、県農業会館で「静岡県経済農業協同組合連合会臨時総会」を開き、県内JAの組合長や関係者らが出席しました。

総会では、松永大吾経営管理委員会会長より挨拶が行われ、議事では決議事項として加藤敦啓代表理事理事長より第73年度（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）事業計画の設定などについて上程し、承認されました。

▲挨拶をする松永会長

▲決議事項の説明をする加藤理事長

新茶シーズンの幕開け
令和4年静岡茶市場初取引

4月18日、静岡市葵区の㈱静岡茶市場で、令和4年の新茶初取引が行われ、取引開始に先立ち開催された式典には、生産者・茶商・JA関係者ら約400人が参加しました。前日の雨のため、初日の取引数量は少なく、昨年の半分程度となりました。

式典では、同市場の内野泰秀社長が「混迷する世界情勢をはじめとして燃料や原材料の値上げが相次いでおり茶業界にも影響がある。おいしいお茶を適切な価格で消費者にお届けするために、生産者・茶商が長年積み上げてきた知恵と工夫を発揮できるよう努力する」と挨拶、次いで川勝平太静岡県知事、田辺信宏静岡市長、静岡県茶業会議所会頭の上川陽子衆議院議員が祝辞を述べました。生産者を代表し挨拶した本会松永大吾経営管理委員会会長は「本年は天候に恵まれ品質の良いお茶ができ、皆さんに良いものを提供できると確信している。生産資材や肥料などの高騰が続いてるので、茶商の皆さんには生産者の元気が出るよう、おいしい静岡茶をたくさん全国に届けてほしい」と呼びかけました。

県内茶の初日の平均単価は5,080円／kgで昨年より20％以上高くなりました。最高値は、JAふじ伊豆・富士宮市産の手もみ茶「さえみどり」の196万8千円／kgで、同市場の最高値を更新しました。

▲川勝平太静岡県知事の祝辞

▲取引のようす

▲取引成立の「手合わせ」をする関係者

最高値を付けたJAふじ伊豆・富士宮市産の茶▶

良質茶の計画生産を
一番茶定点定期生育調査

4月18日と19日の2日間、茶業部はJAおよび県と共同で県内の一番茶の定点定期生育調査を行いました。一番茶の本格的な生産期を前に、生育状況を把握し良質茶を計画生産することが目的で、各茶園の新芽の数や長さ・開葉数、病害虫の発生状況、気象災害などの発生状況について調査しました。

調査結果によると、新芽の生育は良好で、摘採期は平年よりやや早く、非常に早かった昨年より6日程度遅く、盛期は4月25日から5月7日頃の予想となりました。また、気象経過については、1月から2月までの平均気温は平年より低く推移しましたが、3月以降平均気温は平年より高く推移し、適度な降雨に恵まれました。病害虫の発生については全体的に少なく、気象災害などについても、生育に影響を及ぼす気象災害は見られませんでした。

茶業部は、摘採期の短期集中が予想されるので、需要に応じた良質茶生産に向け、計画的な摘採に努めるよう呼びかけました。

地区項目		推定摘採盛期
平坦地	藤枝・島田・牧之原・御前崎・菊川・掛川・袋井・磐田・浜松	4/25～5/2
山間地	沼津・富士・富士宮・静岡・清水・川根・森・天竜・春野	4/30～5/7

県産農産物をPR
ラジオ番組「JA全農COUNT DOWN JAPAN」で「葉ショウガ」を紹介

4月16日、流通開発課は、JA全農が提供するTOKYO FM（JFN38局ネット）のラジオ番組「JA全農COUNTDOWN JAPAN」（毎週土曜日13時～放送）で本県産「葉ショウガ」を紹介しました。同番組は、最新の音楽チャートを紹介しながら各地の旬の農畜産物を毎週紹介しています。

同日の放送では、パーソナリティーを務めるジョージ・ウイリアムズさんと安田レイさんが「葉ショウガ」を試食し「さっぱりとして、爽やかな辛みが病みつきになる。食べるほどに味わい深いおいしさ」と感想を述べ、インターネット通販サイト「JAタウン」で購入できることをPRしました。

令和3年産米食味ランキング

県産「にこまる」（西部地区）4年連続「特A」評価を獲得

3月2日、（一財）日本穀物検定協会から令和3年産米の食味ランキングが発表され本県の「にこまる（西部）」が4年連続で最上位となる「特A」評価を獲得しました。この「特A」評価は、全国の有名ブランド米と同等の食味評価となります。長年にわたり、おいしいお米を作るために、生産者をはじめ関係者の努力の結果として、本県の米の生産技術および県産米のおいしさが認められた証となります。

「にこまる」は、「きぬむすめ」を母、「北陸174号（品種『いただき』の兄弟）」を父として交配した品種で、もちもちとして粘りがある食感と、冷えても硬くなりにくいことが特徴のお米です。

今回「特A」評価を獲得した「にこまる」を始め、「コシヒカリ」「きぬむすめ」ともに、本会のインターネット通販サイト「JAタウン しずおか『手しお屋』」にて販売しています。※特A評価は商品そのものの評価ではありません。

▲JAタウン HPはこちら

県産米の認知度向上へ

「しずおか米 おいしいお米再発見！キャンペーン」を開催

静岡県米麦流通連絡協議会（事務局：食糧課）は、令和4年6月末までの期間、「しずおか米 おいしいお米再発見！キャンペーン」を開催しています。令和3年産の県産「きぬむすめ」「にこまる」などの銘柄の消費者への認知度向上を図ることが目的。

同キャンペーンでは、対象精米（5kg・10kg）のパッケージに貼付しているキャンペーンシールの二次元コードから専用フォームへアクセスして応募。当選者60人に「特選和牛静岡そだち」をプレゼントします。また、3月中旬より「きぬむすめ」と「にこまる」のテレビコマーシャルを放映し、静岡県産米のPRを行っています。

▲キャンペーンの問合先
食糧課（TEL：054-284-9737）

人気スイーツ店で県産品をPR

県産ブルーベリーのタルトを販売

特販課と丸浜柑橘農業協同組合連合会は、人気のタルト専門店「キルフェボン」（本社・静岡県静岡市）へブルーベリーを供給し、同店舗でタルトを販売しています。

丸浜柑橘連では、ハウスから露地と様々な栽培体系でブルーベリーを生産しており、「浜松ブルーベリー」のブランドで販売しています。「浜松ブルーベリー」は、県が高品質な農産物などを独自の基準に基づいて認定する「しずおか食セレクション」に選ばれています。

2センチ以上の大粒で食べ応えのあるブルーベリーを一面に敷き詰めた「静岡県産 浜松ブルーベリーのタルト～レモン風味～」は、「キルフェボン」県内の2店舗（静岡店、浜松店）を含め、仙台店、グランメゾン銀座店、東京スカイツリータウン・ソラマチ店、青山店、横浜店、京都店、グランフロント大阪店、福岡店の全10店舗にて5月末までの期間限定で販売しています。

テレビ番組

「しずおかごはんが食べたい！」のご紹介

担当：食糧部 食糧課（TEL:054-284-9737）

静岡県米麦流通連絡協議会（事務局：食糧部）は、令和３年度に引き続き、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」（テレビ静岡）に協賛し、県産米のＰＲを行います。

番組では、お笑い芸人のフォーリンラブ・バービーさんとオードリー・春日俊彰さんが隔月で出演し、県内の市町を散策しながら静岡グルメを紹介します。今年度も引き続き、番組中で県産米紹介と試食、生産者からのビデオメッセージを放映します。放送は、令和４年５月～令和５年３月で計11回を予定しています。

放送時間は、毎月第３土曜日夕方５時から５時30分となります。ぜひご覧ください！

令和４年度「しずおかごはんが食べたい！」放送スケジュール

放送回	放送日	市町	放送回	放送日	市町
#1	5月21日	三島市	#7	11月19日	藤枝市・焼津市
#2	6月18日	静岡市清水区	#8	12月17日	島田市・吉田町
#3	7月16日	伊豆・熱海	#9	1月21日	富士市
#4	8月20日	静岡市葵区	#10	2月18日	磐田市・袋井市
#5	9月17日	浜松市	#11	3月18日	御前崎市・牧之原市
#6	10月15日	掛川市・菊川市	※都合により、番組内容・放送日時が変更される場合があります。		

▲番組中の「こだわりランチジャー」のコーナー（※写真は令和３年度に放送したものです）

【営農ナビ】 文字が大きく見やすくなってリニューアルしました！

あぐりんく静岡からのお知らせ

県内JA限定

生産・事業推進に役立つ情報が満載!!

農産物安全分析センター

分析メニュー、申込書、分析フロー（手順）を掲載しています。分析の際はコチラから！

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信5月号

経済連コンサルタントによる技術情報

茶業情報

茶情勢、茶期別生産対策、各種統計情報などを随時掲載しています。

販売情報

東京、名古屋、大阪の青果・花卉の概況を掲載しています。

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報なども充実～

担当：生産資材部 生産振興開発課（TEL 054-284-9729）

営農支援だより

サツマイモ基腐病に注意

サツマイモ基腐病被害が拡大中

近年、焼き芋や干し芋、加工したスイーツ等で人気の高まりをみせているサツマイモですが、ここにきて、サツマイモ基腐病という感染力が強く、抑え込みが難しい大変厄介な病害が全国的に急拡大してきています。

◀ほ場での発生の様子

▲地際に見られる病徴

この病害は2018年に国内で初めて確認されました。静岡県でも2020年に発生が確認されています。国内最大の産地である鹿児島県で2021年において約10，000haの作付けのうち7割のほ場で発生が確認されたという報告もあります。

サツマイモ基腐病はどんな病害なのか？

病原菌はサツマイモ基腐病菌という糸状菌で、生育温度は15～30℃で生育適温は28～30℃と比較的高温が適しています。宿主はヒルガオ科のみで、現在被害報告があるのはサツマイモのみです。

症状は、茎葉が黄色や紫色に変色し次第にしおれ、地際の茎が黒変します。茎葉が繁茂する時期には茎が黒～黒褐色に変色し地上部が枯死し、枯死株の塊根は主になり首から腐敗します。

対策は何をすれば？

このサツマイモ基腐病に対する特効薬は今のところありません。ではどのような対策をとればよいのでしょうか。

この病害の対策はとにもかくにもほ場に病原菌を入れないことにつきます。

基腐病の伝染は感染した苗や土壌中の罹病残さにより始まります。次に持ち込んだ菌が接触や停滞水により広がっていきます。よって、基腐病の防除は健苗の確保と健全なほ場の準備という定植前の対策が最も重要となってきます。

健苗の確保は健全な種イモを使用する、もしくは購入苗の場合は信頼のおける相手から購入することです。もし育苗中に発病した株を発見したら種イモごとほ場外に持ち出し処分します。さらに、採苗方法や苗消毒で発病を抑制します。具体的には苗は地際から5㎝以上切り上げて採苗し、採苗当日苗消毒（ベンレート水和剤）を行います。

前年から罹病残さを持ち込まないことも重要です。可能な限り収穫残さは持ち出し、次回作まで複数回耕うんします。また、発生ほ場では土壌消毒を実施し、被害が大きいほ場は、ヒルガオ科以外の作物で輪作します。

基腐病は、水が溜まりやすく、抜けにくい場所での発病が多くなっています。発病株に形成された胞子が降雨による飛散や滞水で周辺株に広がり感染するため、ほ場の排水対策が重要です。

農薬は予防中心の防除を実施します。基本技術を怠って農薬だけで何とかしようとしても解決しませんが、苗消毒の効果が切れる頃（定植5週目）までは、銅剤での予防に徹し、苗消毒の効果が切れる頃にアミスター20フロアブルを散布します。その後、基本的には銅剤での防除を続けます。

対策の基本

基本は、**①ほ場に病害を「持ち込まない」 ②ほ場で被害を「増やさない」 ③ほ場に残さを「残さない」**です。

まだまん延はしていない今が静岡県の踏ん張りどころです。基本技術の励行でサツマイモ基腐病を防ぎましょう。

（野菜花卉課　技術コンサルタント　曽根克巳）

▲罹病したイモ

これからの茶園の病害防除

これからの時期、茶園では気温の上昇と共に各種病原菌の活動も活発になってきます。茶で発生する主な病害の特徴等について説明をさせていただきますので、今後の防除の参考にして下さい。

「炭疽病」

2、3番茶芽、秋芽で発生。比較的高温（25℃前後）と降雨～10時間以上の葉の濡れで感染。発生には品種間差があり、県内で栽培の多い「やぶきた」は弱い品種。

前年の発病葉が茶園に残っていると、それが感染源になり、萌芽～開葉期に前述の気象条件が揃うと多発しやすい。

病原菌は、新芽の毛茸から感染。（硬化した葉には感染しない）感染～発病は10日前後。（褐色の病斑が確認できるのは、感染の2～3週間後）

防除は、摘採しない芽の場合は、予防剤⬇治療剤の体系で行なう。（萌芽期：予防剤、2～3葉期：治療剤）DMI剤は、治療効果高いが、連用すると耐性菌が発生しやすいので連用しない。天気予報と茶園の新芽の生育状況を確認して防除計画を立ててください。夏季の夕刻に降雨が多い場合は注意してください。

炭疽病の越冬病斑

「輪斑病」

摘採等により切断された葉、新梢の傷口から感染。（摘採機・袋が主な原因）生育適温が高温で、2番茶、3番茶摘採後、夏季の刈ならし後に発生しやすい。（感染～発病は5～7日）炭疽病同様に、「やぶきた」は弱い品種。

葉だけでなく、若い枝でも発病し、下から出てくる次の芽まで枯死する場合がある。前年の発病葉が残っている場合は感染源となり発生しやすい。

防除は、摘採1日以内に有効な殺菌剤を散布。散布が遅くなるほど効果が低下する。比較的効果の高いストロビルリン系の殺菌剤は、県内では効果の落ちている地区もあるので注意が必要。

「新梢枯死症」

輪斑病菌が新芽の苞葉や、不完全葉の離脱した傷口から感染して発病。前年、輪斑病の多発した茶園では発生しやすい。発病は感染してから40日程度かかる。2番茶以降の萌芽から2～3葉期に降雨が多いと感染しやすい。

防除は、新芽の萌芽期と2～3葉期に効果のある殺菌剤を散布する。

新梢枯死症

「もち病」

越冬芽に潜入した菌が、翌年の新芽に感染して発病する。前年の秋芽で発生した園では多発しやすい。感染から発病までは約10日。「やぶきた」は比較的弱い品種。

比較的低温（16～20℃）と降雨で感染し、2番茶、秋芽の萌芽～開葉期に発生しやすい。（山間地では3番茶芽でも発病する場合あり）風通しが悪く、日陰になりやすい茶園では注意が必要。

防除は、前年発生した園では1番茶萌芽前に銅剤を散布する。2番茶期以降は、萌芽～開葉期に有効な殺菌剤を散布する。

「褐色円星病」

前年に発生した病斑や、葉層内にある枯葉の病原菌が降雨で感染して発病する。感染から発病までは20～30日で、その後も拡大していく。発病の初期は、葉裏に緑斑症状を呈し、それが秋季以降に褐色円星症状に移行する。多発すると翌年春季に落葉する。

主に3番茶新葉の生育期に感染しやすく、（硬化した葉にも感染する場合あり）樹勢の落ちた園では発生しやすい。

防除は、3番茶芽の生育期～硬化期に有効な殺菌剤を散布する。

茶では、萌芽～開葉期に感染する病害が多く、各種病害に効果のある薬剤を使用すれば同時防除が可能です。

茶等の、病害虫の発生予察については、静岡県病害虫防除所から毎月情報が出されているので参考にしてください。日々の茶園の観察、天気予報を確認し、早めの防除を行ってください。

（肥料農薬課　専門推進員 村上　薫）

JAタウン しずおか「手しお屋」おすすめ商品のご紹介

今月のおすすめ商品をご紹介します！

静岡の新茶

今年も美味しい新茶ができました。新茶の販売は6月中旬までの期間限定となります。

静岡茶揉一（じゅういち）ひとえ

規格：70g×2袋

販売価格：**2,980円**（送料・税込）

【商品紹介】
しずおか食セレクション認定商品！静岡茶「揉一ひとえ」の新茶です♪
静岡県内の11JAが地元のお茶を持ち寄り仕上げたまさに静岡ブランドのお茶！
香り高く、キリっとした渋みが特徴の普通煎茶「山」と水色（すいしょく）の鮮やかな緑とまろやかな味わいが特徴の深蒸し茶「里」のセットです。

５つのJAがコラボ！新茶飲みくらべセット

規格：50g×5袋

販売価格：**4,500円**（送料・税込）

【商品紹介】
県内５ＪＡ（大井川、ハイナン、掛川市、遠州夢咲、遠州中央）の自慢のお茶をセットにしました。
ギフトにおすすめの飲み比べセット♪セット内容は「川根茶（ＪＡおおいがわ）」「牧之原茶（ＪＡハイナン）」「東山茶（ＪＡ掛川市）」「遠州夢茶（ＪＡ遠州夢咲）」「山のお茶（ＪＡ遠州中央）」です。

掛川八十八夜摘み新茶

規格：100g×2袋

販売価格：**3,680円**（送料・税込）

【商品紹介】
八十八夜に摘んだお茶は古来より縁起のいいお茶として飲まれてきました。こちらは八十八夜に摘まれた茶葉のみを使用しています。こちらのお茶は渋みが抑えられ、マイルドな口当たりが特徴の深蒸し茶です。水色が鮮やかな緑色をしており、香りが優れていることも特徴です。

静岡茶セットC

規格：100g×2袋

販売価格：**3,680円**（送料・税込）

【商品紹介】
茶処静岡県においても特に栽培環境に恵まれ、永い伝統と実績を誇る大井川下流域から牧之原台地にいたる地域（島田・金谷地域）で栽培された茶葉だけを原料として、心を込めて荒茶製造、仕上げ加工しました。
香り高く深い味わいの普通煎茶と、まろやかな味と濃緑な水色が楽しめる深蒸し茶のセットです。それぞれの特徴をお楽しみ下さい。

川根（かわね）茶

規格：100g×2袋

販売価格：**3,680円**（送料・税込）

【商品紹介】
川根地域で作られたお茶は、大井川地域の山々から沸き立つ霧が天然の覆いとなって滋養を充分に蓄えた新芽を育みます。まろやかで深い味わいと爽やかな香りが特徴です。
普通煎茶と深蒸し茶をセットにしていますので、それぞれの川根茶をお楽しみください。

本山（ほんやま）茶

規格：100g×2袋

販売価格：**3,680円**（送料・税込）

【商品紹介】
本山茶が生産される静岡市の安倍川上流域の山間部は、静岡茶発祥の地と言われています。この地域は安倍川の川霧と気温の寒暖差があるため、お茶の栽培に最適な環境です。
山間地茶独特の上品でさわやかな香りが高く、味はコクがあり、品質が良いことで知られています。

おいしい日本と暮らそう JAタウン

※販売時期や価格は変更する場合があります

しずおか手しお屋 検索

◀商品ページはこちら

担当：営業部 流通開発課 （TEL:054-284-9728）

令和4年度 新入職員紹介

興津 美佑（おきつ みゆ）［生産資材部　肥料農薬課］

抱　負

関わる全ての方への笑顔と感謝を忘れず、毎日努力していきます。ご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

岡本 康生（おかもと こうせい）［畜産部　西部畜産センター］

抱　負

日々の業務の中で主体的に学び、挑戦する姿勢を忘れず、信頼される社会人になります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

市川 歩（いちかわ あゆむ）［建設部　一級建築士事務所］

抱　負

やる気と責任感を持って、日々の業務に真剣に取り組み、頼りにされる社会人になりたいと思います。ご迷惑おかけすることもありますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。

藤川 俊朔（ふじかわ しゅんさく）［西部支所　みかん園芸課］

抱　負

「思いやり」を意識し、人に頼れる、そして人に頼られる人間になりたいと考えています。自分を磨き続け、可能であれば楽しく生きていきたいです。

大塚 雄太（おおつか ゆうた）［くらし支援部　総合エネルギー課］

抱　負

いつでも誰に対しても明るく、素直でいることを心がけ、誠実な社会人になりたいと思います。目標に向かって精一杯努力します。よろしくお願いいたします。

岩﨑 遥夏（いわさき はるか）［畜産部　畜産課］

抱　負

自分から積極的に学びに行く姿勢を忘れず、日々経済連の職員として成長できるよう頑張ります。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

▲令和４年４月１日に入会式を開催しました

JA静岡経済連
KEIZAIREN情報
毎月1回発行　編集発行／企画　管理課 〒422-8620 静岡県経済農業協同組合　連合会 静岡県静岡市駿河区曲金3丁目8番1号
TEL.054(284)9708 FAX.054(284)9780 http://jashizuoka-keizairen.net E-MaiL:keizairen@kei.ja-shizuoka.or.jp

担当：食糧部　食糧課（TEL：054-284-9737）